

絶滅危惧種を守る生態系保全や 伝統行事の復活など多彩な取り組み

秋田県仙北郡美郷町 美郷町千畑地域農地・水・環境保全組織

取材・文／塚田有香 撮影／多田昌広 写真提供／美郷町千畑土地改良区



(上)土地改良区が開催した水路補修の実演会。新しい技術や地元だけでは習得が難しい技術については、土地改良区が指導や支援を行う。(右)実演会で指導を受けた技術をもとに、水路補修や目地補修をする構成員たち。



(上)イバラトミヨ雄物型が生息する湧水地。町内には、こうした「清水」が120カ所以上ある。(左)実りの時期を迎えた水田地帯。



地域内の23集落が一つにまとまり 負担が大きい事務を土地改良区に委託

秋田県の南東部に位置する仙北郡美郷町。奥羽山脈のふもとに広がる扇状地で、丸子川や真昼川などによって形成された肥沃な水田地帯が広がります。また、「名水百選」に選ばれた六郷湧水群を有するなど、古くから湧水地としても知られてきました。

この地域では、平成19年度から「農地・水・環境保全向上対策」(平成26年度から「多面的機能支払交付金」に移行)を活用し、農業施設の維持管理や生態系の保全、景観形成などに取り組んできました。

この活動を行うため、平成19年に設立されたのが「資源保全千畑地区連絡協議会」(現・美郷町千畑地域農地・水・環境保全組織。以下、保全組織)です。現在は地域内の23集落が参画し、農業者や自治会、青年部や女性部、ボランティア団体などで構成されています。現在の構成員は、4398名。取組面積は2540haで、開水路663・9km、農道471km、ため池43カ所で活動しています。

当初、この組織はそれぞれの集落ごとに活動して

「農地維持支払交付金」での 取り組み



草刈りは年2回、全集落で一斉に行う。



構成員が協力し合い、砂利敷きも円滑に進む。

「資源向上支払交付金」での取り組み



(左)休耕田で栽培したそばを使ったそば打ち会。(下)地元の人たちが多く参加したウォーキング大会。



休耕田で菜の花を栽培し、菜種油を搾取。その廃油からバイオディーゼル燃料を精製。

お問い合わせ 美郷町千畑土地改良区
TEL:0187-85-2218

いました。しかし、活動に伴う会計・経理や見積作成といった事務が構成員にとって大きな負担になるという課題が発生します。そのため、平成24年度に広域エリアで取り組む保全組織へ移行する際、いくつかの集落が「事務処理があまりに大変なので、今回は参画を辞退したい」と申し出る事態になりました。「地域内の全集落が協力し、つながりを強めてきたのに、ここで抜ける集落が出れば、5年間続けてきた活動の価値がなくなってしまう。そこで今回はすべての集落を一つにまとめた広域組織として立ち上げ、一本化した事務手続きを土地改良区さんに委託できないかと相談しました」と話すのは保全組織運営委員会会長の高階真龍さん。その要望を「美郷町千畑土地改良区」も受け入れ、構成員の事務負担が大きく軽減されたことにより、引き続き地域内の全集落が活動に参画することになりました。

ウォーキングやそば打ちなど 地域住民との交流の場も積極的に作る

「農地維持支払交付金」を利用した活動は、水路や農道、ため池の草刈りや泥上げなどが中心です。年に2回、全集落で一斉に行う草刈りには、毎回80人から100人が集まります。

「資源向上支払交付金」については、施設の補修から生態系保全まで、幅広い共同活動を行っています。また、水路の目地詰めなどの軽微な補修は、土地改良区が構成員の一体として指導する実演会を開くなど、技術的な支援を行っています。山沿いの地域では大雨のたびに大量の流木が農地や農道に流れ込

み、業者に委託する処分費用がかかっていましたが、これも土地改良区の助言により交付金で破砕機を導入し、活動を行う集落に貸し出すようにしました。美郷町の湧水地には、環境省と秋田県が絶滅危惧種に指定する淡水魚「イバラトミヨ雄物型」が生息していることから、生態系保全にも注力。定期的な生息状況の調査や湧水地の清掃・草刈りを実施しています。

地域内の小荒川集落では、交付金を活用して休耕田に菜の花を植栽。さらに、集落の自主的な活動として、栽培した菜の花から菜種油を製造し、各家庭で使用した後に廃油を回収して再利用する取り組みも行いました。この廃油からバイオディーゼル燃料を精製し、休耕田で使う農業機械の燃料として活用。また、地域内の施設や史跡を巡るウォーキングや、遊休地で栽培したそばを使ったそば打ちの他、一時は途絶えていたどんぶり焼きやかまくらなどの伝統行事も復活させ、地域のコミュニティ強化も図りながら、交付金を活用した地域の交流活動を積極的に進めています。

「行事には子どもたちも大勢参加してくれました。下の世代に地元の伝統文化を継承していくことも、地域の発展には大事なことです。今後も継続していきたいですね」と運営委員会副会長の藤嶋政春さん。美郷町千畑土地改良区の佐藤慎さんも、「若い世代が行事に参加すれば、後継者の育成にもつながります。今後は行政や学校とも連携して、保全組織の活動を地元の人たちに一層アピールしていきたい」と意気込みを語ってくれました。